

令和6年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第3回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2024年7月13日（土）18:00～21:00

参加者：7名

（学部生：4名、教職大学院生：1名、外部関係者：3名、教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林

■第3回 春日山の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

2024年7月13日（土）18:00～21:00

概要：電灯のない月明かりだけの森の中で過ごし、夜の森の気配を感じる。

18:00 春日山遊歩道入口（南側）

数名参加者が遅れた。

18:20 挨拶・今の気持ちなど

18:30 春日山遊歩道（南部）を歩きながら解説

18:50 五感の体操

19:00 薄暗くなる森を歩きながら妙見宮まで移動

19:30 軽食を取る・休憩

19:40 移動

20:00 森で寝転ぶ

20:15 移動

21:00 解散

■概要報告

春日山原始林の夜を感じるフィールドワーク。この日は天候があまり良くない状況であったが、実施した。薄曇りの森をしばらく歩き、五感を開くアクティビティを実施。7月に鳴くヒメハルゼミの音が森に響き渡り、この季節ならではの音風景を体感することができた。また、雨模様もあり、湿度・気温が共に高くなっていることから、夕方の時間にもかかわらず、たくさんのキノコを見ることができた。春日山のこの季節のキノコでは、傘の裏がスポンジ状のイグチの仲間が多くみられ、傘の裏がひだ状のものもあるなど、キノコにも多様な特徴があることを観察できた。

また、日が暮れて暗くなってからもライトをつけずしばらく歩き、目が慣れれば明かりがなくとも歩けること、空が思ったより明るいこと、森から見える街がとても明るいことなどを実感することができた。また、参加者との会話の中で、獣の匂いを感じるという声も聞かれた。

森に寝転ぶ体験では、眠ってしまう参加者もいたようであるが、時折、ムササビの鳴き声が聞こえることもあり、春日山原始林の夜の様子を体で感じる機会になったのではないかと。

■写真



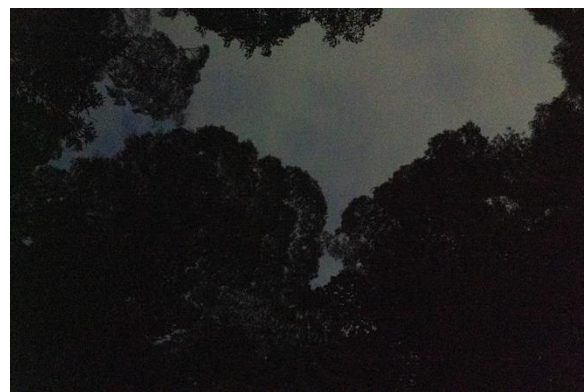
五感のたいそう



妙見宮。原始林内で唯一ここだけ街灯がある。



夜の森に和気藹々とした声が響いた



森で寝転ぶ木々のシルエットと空が見える



キノコを観察 (写真はイグチの仲間)



オオトモエ